エヴェレストの空を仰いで

結城　文

「二年先にネパールへゆきましょうか？」
遠くエヴェレストの峰峰を
仰ぐように
顔を四十五度にあげて
詩人はいった

二〇〇八年十一月十二日
あたたかい日ざしの編集室

沈黙を破った言葉に
一瞬ドキリとする
「こんなふうに公表しながら
やってゆかないとだめなんですよ」
はにかんだような微笑とともに

秋谷豊

八十六歳の言葉に
手を止めたまま誰も答がない

その数日後だった
だしぬけに
訃報が入った

自ら綿密に企画した「地球」の詩祭は
ただちに「お別れの会」になる

多くの人が詩祭に参加した
多くの友人がお別れにきた
これが公的な場へでる最後といった
最長老詩人もいた
秋谷豊の最後の舞台

「二年先にネパールへゆきましょうか？」
白いエヴェレストの峰峰を仰ぐように
顔を四十五度にあげ
登頂の人はいった
はにかんだような微笑とともに